

「ソウルの練習問題」の答はどこに？

もうかれこれ35年くらい前になるでしょうか。初めて「現代社会」授業を担当した時に、夏休みの課題図書の一つとして、関川夏央さんの「ソウルの練習問題」（情報センター出版局：現在は新装版が集英社文庫から）を指定しました。この本は関川さんが韓国を旅した時に感じたことをエッセイ風にしたものですが、生徒たちには新鮮な内容だったらしく、その後の調べ学習と発表では、思いもよらない展開がありました。

たとえば当時の韓国では、日本のテレビ番組はほとんど放映されないし、日本の歌謡曲が歌詞付きで流れることはありませんでした。日本文化に関わる内容は、厳しく放映が制限されていたのです。関川さんが市場で服を買ってホテルに帰って袋を開けたら、とても着れないような大きなサイズのものが「わざと」入れられていたり、ガイドを頼んだ韓国人の人と、市場の人が口論をしていて、どうやらなぜおまえは日本人のガイドなんかしているのかとガイドさんを非難している内容だったとか…「ソウルの練習問題」にはそんなエピソードが随所に書かれています。

なぜ韓国の人には日本人にこんなにも敵意をもっているのか、生徒たちはいろいろ調べて発表してくれました。日清・日露の二つの戦争を経て、日本は朝鮮統監府（とうかんふ）において当時の朝鮮国（李氏朝鮮）の支配力を徐々に奪い、1910年には植民地化します（朝鮮統監府は朝鮮総督府（そうとくふ）となります）。学校での日本語教育や氏名を日本的に改めさせる「創氏改名」などの政策が進められました。朝鮮内では1919年に「三・一独立運動」などの植民地政策に反対する運動が起きています。大磯に住んでいる人は、大磯中学校の近くに「統監道」というバス停があるのを知っていると思いますが、この地名は、近くに初代朝鮮統監の伊藤博文の邸宅である滄浪閣（そうろうかく）があったことに由来します。ちなみに伊藤博文は、安重根（アン・ジュンゴン）という朝鮮の人に中国で暗殺されています。

1945年に日本がポツダム宣言を受諾して、植民地だった朝鮮は解放されます。しかしその後東西冷戦の中での激しい内戦（1950～53年の朝鮮戦争）ののち、現在のように大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国に分断されて独立しました。このうち大韓民国と日本は、1965年に日韓基本条約を結んで、植民地時代の賠償等の問題を「解決」して、国交を回復しました。

国交は回復したものの、植民地時代にたくさんの朝鮮の人々を日本の工場や鉱山、土木工事現場などに動員したことが、強制的に連行されたものだと補償が求められたり、日本軍の展開に合わせて各地につくられた、将兵への性的サービスをする店舗で働いていた「従軍慰安婦」の人々（この中には朝鮮出身の人がたくさんいました）のことも問題になっていました。生徒たちは学校の近くにあった神奈川朝鮮中高級学校という在日朝鮮人の子どもたちが主に通う学校の生徒会に取材したり、川崎にあった在日韓国人の団体の本部の人たちから話を聞いたりして、一生懸命「ソウルの練習問題」を解答しようと頑張っていたのが印象に残っています。

先日、韓国では大統領選挙があり、文在寅（ムン・ジェイン）から尹錫悦（ユン・ソギョル）に替わることになりました。尹錫悦は日韓関係の改善に取り組みたいとコメントしていました。

韓国ドラマやK-POPミュージックなど「韓流ブーム」の背後にある「ソウルの練習問題」に、どんな解答が出されていくのか。皆さん一人ひとりが解答者に加わっていくことが大切だと思います。